

平成21年度 第1回 One Book One OSAKA 事業運営委員会報告

1. 日 時 : 平成21年7月29日(水) 午後1時30分～3時
2. 場 所 : 大阪市立中央図書館 5階 中会議室
3. 出席者 : 別紙「平成21年度 One Book One OSAKA 事業運営委員名簿」参照
4. 会議内容
 - ・ 議事
 - (1) 「大阪市 One Book One OSAKA 事業実施要綱」(平成21年7月1日制定)の報告(別紙「大阪市 One Book One OSAKA 事業実施要綱」参照)
 - ・ 実施要綱第3条第3項(3)に則り、運営委員の互選により運営委員長・副運営委員長を以下のとおり定める。

運営委員長 東淀川区 渡邊裕美子氏
副運営委員長 浪速区 上田道代氏
 - (2) 「大阪市 One Book One OSAKA 事業」の概要について
(別紙「OneBookOneOSAKA みんなでおはなしを楽しむ年(ねん)！」参照)
 - ・ 平成20年度の大阪市職員政策提案・政策形成研修へ応募し優秀提案に選ばれたのをきっかけに、平成21年度より、4ヵ年計画での実施が実現。
 - ・ 「コンセプト」は、以下の4つ
 - ① 読書に関心のないおとなも子どもとともに絵本の楽しさに触れる機会をつくりだす。
 - ② 地域の組織と子どもを読書でつなぐ仕組みをつくる
 - ③ 子どもが読書に親しめる機会・場に関する情報提供を拡充する
 - ④ 子どもが主体的に活動できる機会をつくる
 - ・ 子どもや保護者、市民に「お気に入りの絵本」1冊を選び投票してもらう。絵本を選ぶ過程で読書への関心・意欲が高まるよう促す
 - ・ 平成21年度のこれまでの経過として、広報・協力依頼状況、チラシ・投票箱設置状況については、別紙「平成21年度 One Book One OSAKA 事業のこれまでの経過」参照。

(3) 今後の事業予定について

- ・ 中間得票状況報告および広報（9～10月頃を予定）
- ・ モデル地区での世代間交流事業
（絵本を題材にした料理教室や折り紙教室）
- ・ こども運営委員の公募（1月頃を予定）
- ・ 第2回運営委員会開催（3月予定）
- ・ 市長から「One Book」を発表（4月23日子ども読書の日）

(4) 部会の設置について（アンケートで希望調査実施）

① 予備選定部会

PRのための中間得票結果に際しての投票用紙の選択作業、
3月の第2回運営委員会前の候補絞込み作業)

② 企画PR部会等

広報手段や平成22年度に向けた企画案の検討

(部会参加は強制ではなく、部会の日程が決まり次第、情報はすべての委員にお知らせし、実際の作業は、運営委員以外のボランティアさんの協力も求めていく)

(5) 感想・意見

【事業そのものについて】

- ・ 1冊に絞らなければならないのは、大変だし、残念である。
- ・ 1冊を選ぶプロセスが大事だと思う。子どもは、絵本か物語か区別しにくいから、100冊なり 500冊なりを図書館が選んでから、その中から選んでもらうというのはどうか？
- ・ 「薦めたい本」ではなくて、「お気に入り」の本というのが、すごくいい。「お気に入りの本」というチラシの言葉に感動。
- ・ 1冊のお気に入りの絵本は、昨日読んだ本なのか、幼稚園等の時に読んだ本なのか、また、読み返してみる機会を与えてもらえるような事業になったら楽しいと思う。
- ・ 色んなイメージが湧いてくる、面白そうな事業にしていきたい。
- ・ 子ども運営委員の参加は、ぜひ進めていって欲しい

- ・ お母さんとの「コミュニケーションの手段としての絵本」という視点を出せたらと思う。
- ・ 事業名の「OSAKA」にこだわる。「大阪市の1冊」だったら、大阪を舞台にしていたり大阪弁が出てきたりする絵本を考える。こだわらないなら、毎年、同じような絵本が出てこないだろうか？
- ・ 本当に、この事業で底辺が広がるかなと疑問に思う。本が好きじゃない子は、いくら読み聞かせをしても好きじゃない。
- ・ いつか本が好きになるかもしれないし、あせらず取り組んでいけばいいと思う。
- ・ 次年度、次々年度は、新しいやり方での取り組みもいいのでは？

【投票方法・広報について】

- ・ 事業の盛り上がりや、さらなる投票を促すためには、ランキング等の中間報告が必要。
- ・ 乳児絵本部門、幼児絵本部門、小学生向き部門、絵本以外の番外編等で、上位20冊なり50冊なりを発表して欲しい。
- ・ 未就学児に対しては、母親も巻き込んで絵本に対する関心を高めていきたいので、保育所や幼稚園以外にも、例えば、子育て支援センターにも投票用紙等を置いてほしい。
- ・ 投票用紙は無記名だが、記名のほうが、責任感を持って、しっかり書けるのでは？
- ・ 記名が大人の参加をけん制するなら無記名でもよいとしても、年齢、男女の別くらいはあってもよいのではないか。年齢別「お気に入り絵本」ランキングの発表等も面白い。
- ・ 今年度限りの投票ではなく、次年度も投票できるよ、というのをしっかり広報して欲しい。

【ボランティア活動とのかかわりについて】

- ・ 絵本展を小学校で実施予定だが、その場で投票を呼びかけてみる。
- ・ 様々な場所で開催される絵本展で、OneBookも一緒に組み合わせて投票を促していくというのは、よい取り組みではないか。

- ・ 絵本を選んでもらうにあたっては、ボランティアの影響も大きいと感じる、責任が重いのではとも思う。
- ・ 自分自身も投票してみたい、小学校等でこの事業のPRを手伝いたい。
- ・ 選ぶプロセスが大事、子どもが生き生きとしたコミュニケーションを通して活動していくというのを目的として、ボランティアの立場で、それを一番大事にしていけば、いいものが見えてくるのではと思う。
- ・ この事業の目標に「確かな学力を身につける」とかあるが、大義名分を掲げず、気軽に参加していきたい。
- ・ 部会での取り組み等、ボランティアの負担が増えるのを危惧する。

【学校・保育所等での取り組みについて】

- ・ 小学校における取り組みとして、いきなりベストワンを選びにくいだろうから、投票を促しながら、何回も下書きさせたりしようか等、検討中。
- ・ 幼児が描いた投票用紙に、文章を足す時には保育士や保護者が書くという方法もある。また、保護者にも投票してもらいたい。
- ・ 学校の先生方へのPRが必要（図書主任会等への参加、呼びかけ）
- ・ 小学校での具体取組み例などを提示する等、校長会での情報の流し方を検討すべきである。
- ・ 二学期の読書週間に絡めてのPRも効果的。
- ・ 小学校で、上から「さあ、1冊選べ！」って言ったら、嫌になる子ども出てくる。学校で強制的に投票用紙を出させるっていう取り組みは止めていただきたい。
- ・ ボランティアの立場では、小学校ではこの事業を題材にして、子どもや先生たちとも遊べたらいいと思う。
- ・ 「必ず投票しなさい」という趣旨のものではなく、盛り上がる仕組みを考えていくべきである。